

IPTPC セミナ パネルディスカッション

ユーザー視点から見たテレワークの効果

～効果は数値化できる～

IP電話普及推進センター(IPTPC)は12月22日、「企業での働き方とそれを実現するコミュニケーションの将来像」をテーマにセミナーを開催した。ここでは、IPTPC OKI代表の千村保文氏、日本テレワーク学会理事の柴田郁夫氏によるキーノート講座に続いて行われたパネルディスカッションの様態をダイジェストでお届けする。モバイルワークや在宅勤務など、ICTを活用した場所や時間に捉われない柔軟な働き方である「テレワーク」を主なテーマに、企業コミュニケーションについて非常に有益な議論が交わされた。

(編集部)

モデレーター

IDC Japan
コミュニケーションズ リサーチマネージャー
眞鍋敬氏

パネラー

日本テレワーク学会
理事
柴田郁夫氏

OKIネットワークス
事業本部
ソリューション第一部 部長
丸井武士氏

NEC
IP電話普及推進センター
エバンジェリスト
竹井俊文氏

日立製作所
通信ネットワーク事業部
企業ネットワーク本部
ビジネス推進部 主任技師
藤田卓也氏

富士通
IP電話普及推進センター
エバンジェリスト
竹田義浩氏

眞鍋 今日は気温も寒いですが、経済状況も非常に寒い状況になっていまして、調査・コンサルティングをやっている我々がよく聞かれるのは、「この売れない時代に、売れるものは何か」ということです。

そのはっきりした答えは私も持っていませんが、ユーザー企業へのアンケート結果からは次のことが確かに言えます。投資効果が非常に見えやすいもの、あるいは投資が短期で回収できるものにIT投資が集中しているということです。ユニファイドコミュニケーション(UC)の領域では、例えばビジュアルコミュニケーションやモバイルコミュニケーションを含むものが挙げられるでしょう。本日の主たるテーマであるテレワークは、これらを含めたもう1つ上のソリューションと言えます。そうした意味でもテレワークは2010年、1つのキーワードになってくる可能性があると考えています。

ホワイトカラーの生産性向上やコストダウンとは長らく言われている課題ですが、どこでも仕事ができるテレワーク環境を作れば、これらは達成可能です。ただ、それを実現するシステムは何なのか。そして、一体何が課題であり、その課題を解決できるテクノロジーは何なのか。今日は実際の事例を交えた格好でパネラーの皆さんと議論していきたいと思いま

す。では、NECの竹井さんからお願いできますか。

竹井 はい。昨今の企業経営を取り巻く社会問題が新たな課題となっていますが、なかでも環境負荷CO₂の削減が注目されています。特に、ワークスタイル革新によるオフィスの省スペース化、OA機器の省エネ、ペーパーレスなどのオフィス効率化が課題となっており、NECではUNIVERGEソリューションを活用してこの課題に取り組んでいます。

具体的にはまず電子ドキュメントと資料共有によるペーパーレスです。実はペーパーは、人と同じくらいフロアのスペースをとっているんですね。ペーパーが減りスペースが減れば、照明・空調を削減できます。それによって設備投資のみならずCO₂も削減できるわけです。次は、ブロードバンドオフィスによるフリーアドレスです。オフィスの在席率が低い場合は、今本当にいる人だけのスペースに減らせます。3番目はUCです。相手のプレゼンスに合った最適なコミュニケーション手段をとることで、業務プロセス間の人・人のコミュニケーション時間を短縮でき残業時間が減るので照明や空調を削減できるのです。

さらに実際の事例ですが、ペーパーレス化で人・人のコミュニケーションも良くなりました。導入前は机の上